

要約

割付治療および後治療別の全生存期間

- サブグループ間の背景因子は大きく異なっていた。
- 「クロスオーバー」のあるサブグループの生存期間は割付治療群間で類似していた。
- 全サブグループの中で、後治療なしのサブグループが、特にゲフィチニブ割付群において、生存期間が最も短かった
 - しかし、この解析は割付治療中止後、即同一治療を受けた患者を除外している
- 後治療として割付治療を継続した患者での生存期間は長かった。
- サブグループはランダム化されていないため、解釈は非常に困難
 - 各サブグループごとに予後は異なると考えられる
 - 生存期間の差が、治療法によるものか、患者特性によるものか、あるいは他の未測定の変因によるものかを識別することは不可能

25

後治療: 全生存期間に与える影響を
評価する試み